

# ごけん

平成 24 年

秋

号

## 日本語検定 実施予定

平成 24 年度第 2 回 (通算第 12 回)

[一般会場] 11月 10日(土)

[準会場] 11月 9日(金)・10日(土)

[申し込み期間] 8月 1日(水)～10月 12日(金)

後 援：文部科学省／日本商工会議所  
経団連事業サービス／全国連合小学校長会  
全日本中学校長会／全国高等学校長協会  
全国高等学校国語教育研究連合会  
全国高等学校 PTA 連合会 他

特別協賛：読売新聞社

協 賛：時事通信社／東京書籍



日本語検定公式キャラクター「にほごん」

## もくじ

ごけんインタビュー	
梅津正樹	2
ごけん情報板	4
採点室から	5
演劇人が日本語検定に挑戦	6
こんなに面白い!	
日本語の方言 ②	7
受検団体・受検者の声	8
にほごん にほんご劇場	10
受検案内/ プレゼント・クイズ	12

特定非営利活動法人

日本語検定委員会



## 察し合うことから 伝え合うことへ

い」と言えば、大方の人は理解してくれます。しかし「赤い」とはどんな赤なのか、「大きい」その大きさは、「美味しい」とはどのような味なのか、それぞれのイメージは異なるのです。

それは、人は誰でも、ことばや表現を解釈するとき、自分の経験の中で獲得した知識や感覚を元に、独自に判断しているからです。私達は、生まれてからこれまで、自分が獲得していることばで話し、コミュニケーションを図っています。それで概ね不都合が無かったとしたら、自分の使っていることばは、概ね正しいと思います。一つ一つのことばの意味や使い方には、幅があり、その中で揺れ動きます。

「ことばの力」という言い方がありますが、それは個々の単語にあるのではなく、ことばとことばを組み合わせることにより、そこに生命力が吹き込まれ「生きたことば」が生まれるのです。

日本には「和歌」や「俳句」といった独特の「定型詩」があります。極めて少ないことば数で無限の表現を志していま

す。万人に共通のイメージを与える事など不可能なのです。そこに文学・芸術の魅力があるのではないのでしょうか。

表現者の意図を離れてことばが独り歩きする事は、文学の世界だけではありません。日常生活においては、なおのことです。日常の「話しことば」は練り上げて使っているわけではありません。どんなに正確を期しても、誤解は生じるものです。それにもかかわらず、長い間、大きな混乱も無く、話しことばによるコミュニケーションが成立していたのは何故でしょうか。それは、日本には「察し合う文化」「助け合う文化」が脈々と受け継がれてきたからではないでしょうか。明確な物言いではない、婉曲表現が尊重されてきました。少ないことば数と遠回しな表現から、曖昧な部分をお互いに察し合ってきたのです。それが上品であり礼儀に適っているとされてきました。何故それが可能だったのでしょうか。それは人々が、ほぼ同じような価値観を持ち、ことばに関しても、ほぼ同じ認識を持っていると思っていたからではないのでしょうか。或いは、持たざるを得なかったのかも知れません。もし違和感を持ったとしても、深くは追求せずに、その場を穏便に過ごすことで、人間関係を保ち、

自分達の暮らしを守ってきたのです。

ことばは、日々の暮らしと密接な関係にあります。暮らしの中から必然的に生まれます。狭い日本の中に多数の方言が存在するのは、そのためです。地域だけでなく、年代によっても、職業によっても、つまり環境が異なれば、ことばも異なります。「若者ことば」や「業界用語」と呼ばれるものもそうです。その限られた共同体の中だけでのコミュニケーションならば、混乱は無いのです。

ところが、ことばを取り巻く社会環境が複雑化し、「ことば」がそれぞれの垣根を越えて瞬時に飛びかうようになりました。価値観が多様化した今では、簡単に察し合うことなど、できなくなってしまうのです。賢明な人々は、自分とは異なることばや表現に遭遇したとき、相手が間違っているのだと、安易に決め付けるべきではないと悟っています。そして、年代を超え、地域を超え、価値観を超えて伝え合うことができる「ことば」を模索します。「ことばの規範」を求めているのだと思います。

こうした時代背景の中から、誕生したのが「日本語検定」ではないでしょうか。できるだけ多くの人に参加することにより、「ことばの規範」の精度が高まるよう期待しています。

うめづ・まさき  
 獨協大学言語学科講師。  
 1948年東京生まれ。  
 1972年獨協大学卒・NHK入局、報道番組・教養番組など担当、人材育成・放送用語担当、2003年から「ことば」の番組を中心に担当。

# 梅津 正樹

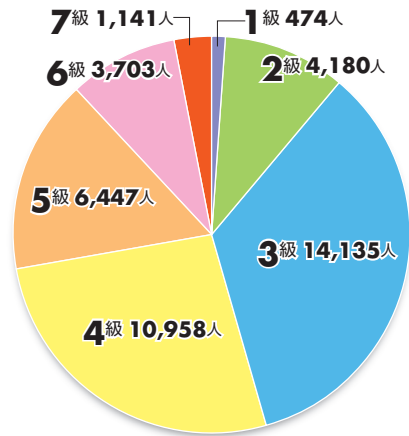
NHK  
 エグゼクティブアナウンサー

## ごけん情報板

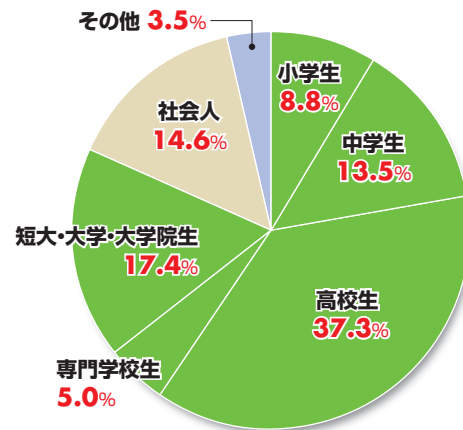
このコーナーでは、今年6月に実施しました、平成24年度第1回（通算第11回）日本語検定について、各級の受検者数などのデータをご紹介します。

### ◎平成24年度第1回（通算第11回）

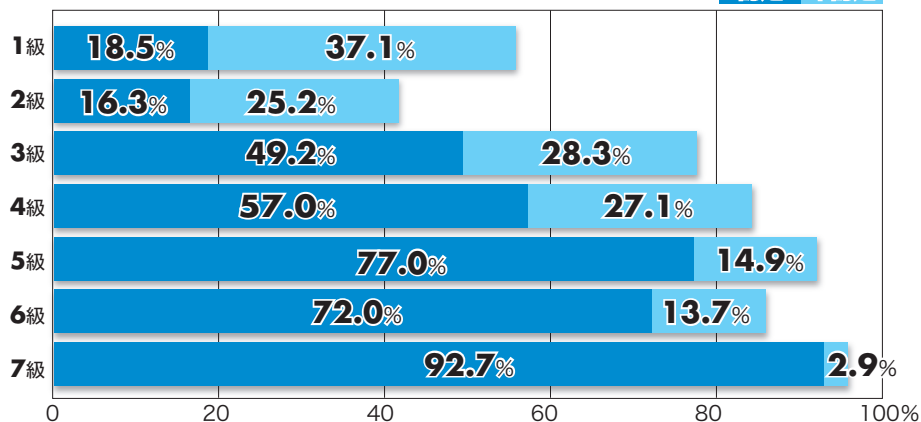
#### ■受検者総数と級別受検者数



#### ■受検者の学校・所属別割合



#### ■各級の認定率



## 採点室から

## 漢字の読み書き 24年度第1回の問題より

各級にある「漢字を書く」問題と、1・2級にある「漢字を読む」問題から、例によって、あまり正答率の高くなかった問題をいくつか紹介します。

「書く」問題の多くは、文章題の中のカタカナで書かれた言葉を漢字にするという形式です。その語の意味や用法を理解していないと、正しい漢字は書けないことになります。「読む」問題のほうは、その言葉をふだんから見たり聞いたりしているかどうか、正誤を分けるようです。

### 〈漢字を書く〉問題

#### ■6級

漢字の**カクスウ**が多い場合は、他の字よりも文字が大きくなりがちなので、特に注意しましょう。  
(答え：画数—正答率56%)

★7級には、「つぎの漢字の画数は何画でしょうか」という設問がありますが、カクスウをいざ漢字で書くとなると……。 「画」の字を正しく書けない誤答のほか、「角数」「書く数」「各数」「確数」「格数」「回数」などの答えがありました。

#### ■5級

真げんな表情で、さまざまな機械や道具を使って、自分の仕事を**ノウリツ**よく進めていた。  
(答え：能率—正答率47%)

★「能」も「率」も小学校5年生で習う漢字ですが、同音のほかの漢字を書いてしまうケースもあり、意味を的確にとらえて両方を正しく書けた人は半分以下でした。誤答としては、「能立」「農立」「態率」「脳率」などがありました。

#### ■3級（送り仮名も含めて）

そこで、地域の高齢者を学校に招いて、敬語指導に**タズサワッテ**もらってはどうか。  
(答え：携わって／携って—正答率42%)

★この問題では、「携」の字が思い浮かばない人が多かったようです。「訪さわって」という誤答もありました。また、字が思い浮かんでも正しく書けない、あるいは、「携さわって」と送り仮名をまちがえてしまうケースも見られました。

### 〈漢字を読む〉問題

#### ■2級

この本の著者の主張を**把捉**するには、相当の時間を要する。  
(答え：はそく—正答率55%)

★「把」は以前からの常用漢字、「捉」（ソク・とらえる）は平成22年11月の内閣告示で常用漢字となった漢字です。

解散・総選挙を求めて、野党第一党の派閥の**領袖**が政権への対決姿勢を強めている。  
(答え：りょうしゅう—正答率11%)

★「領」は小学校で習う漢字、「袖」（シュウ・そで）は新しく常用漢字となった漢字です。「派閥の領袖」などと、しばらく前までは報道でよく取り上げられていた言葉ではありますが……。

#### ■1級

**仄聞**するに、彼は離婚したという。  
(答え：そくぶん—正答率27%)

★「仄」（ソク・ほのか）は、常用漢字外の漢字です。「じんもん」「じんぶん」「かいぶん」などの誤答がありました。「仄聞したところ」などと、エッセイや小説にしばしば現れる言葉ではありますが。

当たり前のように、幅広くいろいろな文章に接することが、「漢字力」をつけることにつながります。

# 美しい日本語にこだわった演劇人が 日本語検定に挑戦

今年6月に行われた平成24年度第1回検定では、創立以来美しい日本語にこだわった演劇を追求していることで知られる「文学座」の劇団員や、元タカラジェンヌの皆さんが団体受検しました。  
(時事通信社 編集委員 牧俊朗)

## 文学座

東京・新宿区信濃町にある文学座は、1937年に岸田國士、久保田万太郎らが創立した日本の代表的な劇団のひとつ。杉村春子さんや加藤武さん、江守徹さんら有名俳優を筆頭に多くの演劇人を輩出していることで知られています。今回は、8人の劇団員が3級に挑戦しました。



「あまり敬語を使うことがないので、一社会人としてどの程度日本語を知っているかを知りたいと思い、受検することにしました」。検定開始とともに真剣な面持ちで問題に取り組んでいました。

検定が終わり、「敬語が難しかった」「携帯電話でのメールのやりとりが多い影響なのか、日ごろ漢字をあいまいにしか記憶していないことを思い知らされた。読めるが、全然、書けませんでした」などと振り返っていました。

## 元タカラジェンヌ

宝塚歌劇団72期生の元タカラジェンヌの真山葉瑠さんが宝塚歌劇団時代からの友人に呼び掛け、6人が3級にチャレンジしました。開始前は、リラックスムードでしたが、試験開始の合図とともに会場の雰囲気が一転。ピーンと張りつめた緊張感が漂いました。



(受検した暁なぎさん、真山葉瑠さん、森奈みはるさん、美郷真也さん、嘉月絵里さん、萌木彩人さん)

受検の感想は、「これも正解じゃないか。あれも正解じゃないかとずいぶん迷った」「自分がいかに日本語ができないのかが分かっただけでもよかった。これからは日ごろから注意してもっと日本語を勉強したい」「音楽学校を卒業して以来、鉛筆を持ってこの種の受検するのは初めて。言葉にならないぐらい緊張して疲れました」などとさまざまでした。

こんなに面白い!

## 日本語 の 方言<sup>2</sup>

山田 敏弘

日本には多くの方言があります。では、方言はなぜできるのでしょうか。これには、基本的な3つの考え方があります。

ひとつは、各地で方言語彙が自然発生的にできるということです。子どもの遊びの名称などは多くこのパターンで、警察と泥棒に分かれておこなう鬼ごっこは、全国で「ケードロ」と呼ばれることが多いようですが、「ドロケー」というところもけっこうあります。また、「警察」に替わって「巡査」が出てきて「ドロジュン」と言ったり、「探偵」と「盗人」が出てきて「タンヌス」と言ったりもします。このような自然発生の方言語彙は、語形が多く複雑に入り乱れた分布が見られるのが特徴です。

もちろん、方言ができるには、多く歴史が関係しています。情報の発信源は、今も昔も「都(みやこ)」ですが、テレビもインターネットもなかった時代、言葉はゆつくりと都から同心円状に広がっていきました。第2は、このような伝播型です。

柳田国男(1875-1962)が「発見した」この説は、「方言圏論」と呼ばれています。例えば、「かたつむり」の方言語形には、東北北部と九州中南部の「ナメクジ」、関東地方東部や中国地方などの「マイマイ」、中部地方や、近畿南部、中国・四国・九州地方の「カタツムリ」、近畿地方を中心に見られる「デンデンムシ」などがあります。つまり、「デンデンムシ」「カタツムリ」「マイマイ」「ナメクジ」の順で、京都を中心同心円状に分布しているのです。おもしろいのは、およそこの順で歴史上も文献に現れること。つまり、日本語の歴史が地図に

現れるということです。

このような伝播は、全国的な広がりほかに狭い地域でも起きています。鉛筆の先がとがっている様を表す「トキントキン」は、名古屋から広がりはじめ、岐阜市など周辺地域に受け入れられようとしています。

伝わってくる言葉があれば、逆に、消える言葉もあります。「疲れた」「しんどい」の意味で今でも東海地方でよく使われる「エライ」は、かつては、西日本で広く使われた言葉でした。しかし、関西地方で「シンドイ」に置き換わり、北陸地方の富山でも、「ダヤイ」が使われるようになり、「エライ」は廃れました。こうして、「エライ」は、東海地方や中国地方などの方言として残ったというわけです。このような取り残され型による第3の方言形成は、伝播の裏返し現象と言えるでしょう。

さて、世界に目を向けてみましょう。外国には方言がないかとよく聞かれますが、どうでしょうか。イタリアやイギリスには方言が多くあります。ローマに住んでいた頃、ローマで女友達のことを指す「アミーカ」が、フィレンツェでは「アミーハ」と言っていて驚いたことがあります。イギリスには、(I) am というかわりに、be や is を使うところもあるそうです。一方、アメリカや、ロシアのアジア部に方言は少ないと言われます。

この違いはなんでしょう。それは、ずばり歴史です。方言があるということは、言語としての歴史があるということ。方言があることを、私たちはもっと誇っていいのかもしれません。

やまだ としひろ / 岐阜大学教育学部 シニア准教授。  
専門は日本語学。博士(文学・大阪大学)

### 大切にしたい日本語の力

富山国際大学現代社会学部 教授 大谷 孝行先生



大学で、1年生の学生を対象に、日本語で「読み・書き・話し・聞く」能力を伸ばす必修の授業を担当しています。日本語に関する能力は、大学では答案、レポート、論文を執筆する際に当然必要ですし、就職後も文章作成や人との対応の機会は数限りなくあり、そこでも不可欠な要素となります。担当授業では日本語検定の問題を解かせたり、受検を積極的に勧めたりして、日本語検定を活用しています。

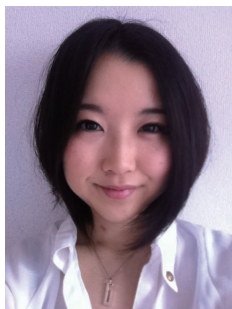
富山県での生活は、移動手段として自家用車を利用することが多く、そのために自分の足で歩く機会が減って運動不足になってしまうという問題があります。これと似たことが、若者の日本語力をめぐる環境でも起こっているように思います。

パソコンやスマートフォンの普及によって、例えば文字を書くにも漢字の変換や送り仮名の送り方、助詞・助動詞の使い方に関する適否判断などを機械に任せることが多くなりました。その結果、機械に頼らず自分だけの力で文章を作成しようとすると、漢字や文章が書けないということが起きています。

学生自身も自分の日本語力が十分だと必ずしも思っているわけではなく、能力を伸ばすために何らかの方策を取りたいと考えているようです。生活に即した場面で自分の日本語力をバランスよく確認でき、目標をもって日本語の勉強ができる点で、日本語検定は有効な方法だと思います。

### 再認識

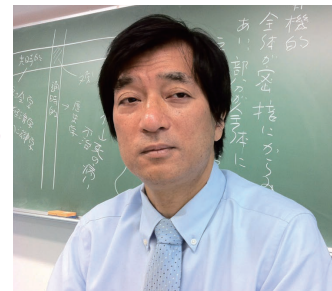
東京大学4年 タレント 杉山 文菜さん



私は、日本語検定を受検する前は次のような認識を持っていた。「自分は日本人で、日本語は生まれた時からずっと使っている言語なのだから、大して勉強しなくても問題は解けるだろう。そして、日本語検定という試験は、日本人がTOEICを受けるように、日本語を学ぶ外国人が受けるものだろう。」しかし、実際に受検対策の勉強をしてみるとその認識がガラッと変わった。日本人でも知らないこと、日々誤って使っている言葉、長い年月をかけて誤っているのに正しいこととして認識されるようになった言葉。目からうろこ

### 日本語に対して、 総合的に取り組ませることのできる よい検定だと思います

帝京八王子高等学校 曾根 康雄先生



読書スピードと読み取りの深さには、ある程度まで比例の関係があると言われる。読書スピードは読書量に比例するとも言われます。語彙の量も読書量に比例します。そう考えると、国語の、特に現代文の学習の基本は読書にあるということになります。

そのことを知って知らずか、入試で語彙の問題を独立して出す大学も増えていきます。受験参考書や問題集に載っている四字熟語や慣用句だけでなく、日常で使うさげない言い回しを訊いてくることがあります。それはまるで読書量を問われているかのようです。もちろん、その対策としては、多読濫読、本を読んでもらえばいいのですが、今の高校生は、本を読まない。特に私の教えている生徒は、本当に本を読まない。入試の読解問題の解答のコツのようなものは教えられても、語彙を増やすことにコツはありません。むしろ本好きの生徒が当然のように知っている語句や慣用句を、かなり成績のよい生徒が意外にも知らないことがあります。

そこで日本語検定。語彙量を増やし、言葉に親しむためにも日本語検定の受検を本校では勧めています。高校2年生までに2級合格を目指しています。2級に受かっていれば、大学入試の語句問題には対応できると考えています。生徒の興味を惹くために、授業でミニテストを実施したり、自習課題に問題集を使ったりしています。

の情報が沢山あった。

世界とのつながりがますます強くなり、英語の重要性、世界の人々とのコミュニケーションが重要視されるようになった昨今、多くの人が英語やそのほかの言語に関する試験をこぞって受けるようになっている。日本語は当然できると過信している。自分もその一人だった。

しかし今回、日本語検定を受けるにあたって、日本語の勉強を改めてしてみると、生まれたときから触れてきた言葉であるにもかかわらず、的確な説明ができない語があったり、敬語の正しい使い方ができていなかったりということが分かった。

世界中の人々とコミュニケーションをとる手段が英語であったとしても、自分の母国語すら正確に使いこなせないのでは、世界と対等に接することはできないだろう。母国語の正確な理解は、自国の文化、価値観、そして国民性の理解へつながる。そして、そのことこそが世界と自己尊重の関係を築く足掛かりとなるはずだ。



ひつぜつ  
「筆舌に尽くしがたい」

文章や言葉では十分に表現しきれない。



## TOPPAN

**印刷博物館。**  
ここには、人類の知と創造へのエネルギーがあふれています。

〒112-8531 東京都文京区水道1丁目3番3号  
 トップラン小石川ビル  
 TEL: 03-5840-2300 (代)  
<http://www.printing-museum.org/>

トップランは、印刷文化の普及と、日本語力の向上に取り組んでまいります。

## ひとり、ひとりに情報のカタチを。

ひとり、一人に、「伝える」こと。

一人、ひとりに、「伝える」こと。

明細票や宅記伝票など  
 誰もが利用しているビジネスフォーム。  
 私たちは、ビジネスフォームの  
 トップメーカーとして情報をデザイン  
 することで社会と繋がっています。

**トップラン・フォームズ株式会社**  
 本社 〒105-8311 東京都港区東新橋1-7-3 TEL.03-6253-6000 <http://www.toppan-f.co.jp/>

## TOPPAN FORMS

## ANA流自分磨き塾

～ワンランクアップのために～

ANAラーニング築地新教室オープン記念企画の公開講座  
お仕事帰りに気軽にご受講いただける全10講座をご用意しました

開催日時	火曜日コース9/18～・水曜日コース9/19～・木曜日コース9/20～ 全講座ともに19:00～20:30(90分)
受講料	1講座: ¥5,000(税込) / 1コース(全10講座): ¥45,000(税込) ※特別講座(メイク)は別途申込が必要です
会場	ANAラーニング築地教室
定員	10～16名(講座により異なります)
申込	ANAラーニングのHP申込フォームまたは申込用紙を ダウンロードしてFAXにてお申込ください

第1回	自己理解
第2回	好感度アップ
第3回	パーソナルカラー
第4回	声の印象アップ
第5回	<b>表現力アップ</b> 相手を惹きつける話し方を磨く
第6回	冠婚葬祭のマナー
第7回	グローバルなマナー
第8回	テーブル・パーティマナー
第9回	ENJOY!WINE!
第10回	異業種交流 ※単体の申込はできません
特別講座	メイク(女性限定)

お問合せ **ANA** ANAラーニング株式会社 TEL.03-5148-2500 9:00-18:00(土・日・祝・年末年始を除く)  
 〒104-0045 東京都中央区築地2-12-10 築地MFビル26号館 URL <http://www.analearning.com/>

# 平成24年度 第2回 日本語検定 受検案内

[一般会場] **11月10日(土)**

[準会場] **11月9日(金)・10日(土)**

[申し込み期間] **8月1日(水)～10月12日(金)**

[実施都市] 全国の100都市以上で実施予定

[受検級の目安と受検料]

受検級	受検料	社会人	大学生	高校生	中学生	小学校 高学年	小学校 中学年	小学校 低学年
1級	6,000円							
2級	5,000円							
3級	3,500円							
4級	2,000円							
5級	1,500円							
6級	1,500円							
7級	1,400円							

※1級の受検には、2級認定が条件となります。

公式ホームページ <http://www.nihongokentei.jp>

## プレゼント・クイズ

問題：「にほんご にほんご劇場」で取り上げた慣用句は何でしょうか。〇〇の部分<sup>①</sup>を補って完成させてください。

『〇〇に尽くしがたい』

抽選で5名様に、オリジナル『にほんごパズル』と『にほんご絵はがき』セットをプレゼントします。はがきに、クイズの答えと、お名前、性別、年齢、ご住所、ご連絡先（電話番号またはメールアドレス）を明記のうえ、日本語検定委員会までお送りください。平成24年12月31日の消印まで有効です。当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。



(応募の際の個人情報は、本プレゼント以外では使用しません。)

## 開講予定 洒落たおとなのための日本語学2 ～教養としての日本語を嗜む～

講師：川村二郎  
(日本語検定委員会審議委員、元「週刊朝日」編集長)

場所：学習院生涯学習センター

日程：9月26日(水)  
日本語について考える／読書の薦め  
10月10日(水)  
人生を豊かにする珠玉の名文  
10月31日(水)  
心に響く文章を書くための「極意」  
いずれも13時～14時30分

詳しくは、学習院生涯学習センター  
(電話：03-5992-1040) まで  
お問い合わせください。

特定非営利活動法人  
 **日本語検定委員会**

〒114-8524 東京都北区堀船2-17-1

【お問い合わせ先】0120-55-2858

<http://www.nihongokentei.jp>